

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年11月26日

協議会名: 芦別市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
空知交通株式会社	本町循環線 ① 芦別駅前～あけぼの団地～芦別駅前(①コース) ② 芦別駅前～市立病院～芦別駅前(②コース)	令和2年10月1日からの運行ダイヤ一部見直しを決定した。 ○ 見直しする路線 【芦別温泉線】 本市観光施設である芦別温泉に向かう観光客や市民の利便性を確保するため、夕方便を1便(1往復)増便した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 目標値4.3人/1運行当たりに対し4.4人/1運行当たりであった。	地域住民が安心して暮らすことができるよう通院、通勤、通学、買い物など市民生活の足となる路線の維持確保を図るため、新たに「地域公共交通計画」を「立地適正化計画」に併せて策定し、生活交通ネットワークの構築を進めていく。
	上芦別線 ③ 芦別駅前～南1条東1丁目～さつき団地(国道経由) ④ 芦別駅前～市立病院～さつき団地(市立病院経由)	【本町循環線①】 3便のうち1便について、運行時間を変更した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C コロナ禍の影響により、輸送人は目標値8.4人/1運行当たりに対し7.5人/1運行当たりであった。	
	頼城線 ⑤ 芦別駅前～南1条東1丁目～頼城(国道経由) ⑥ 芦別駅前～市立病院～頼城(市立病院経由)	【頼城線(国道経由)】 土日祝日の「芦別駅→頼城」便の3便のうち1便について、運行時間を変更した。 土日祝日の「頼城→芦別」便の1便の運行時間を変更した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C コロナ禍の影響により、輸送人は目標値10.4人/1運行当たりに対し9.0人/1運行当たりであった。	
	芦別温泉線 ⑦ 芦別駅前～市立病院～芦別温泉	【頼城線(病院経由)】 土日祝日の「芦別駅→頼城」便の3便のうち1便について、運行時間を変更した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C コロナ禍の影響により、輸送人は、目標値9.7人/1運行当たりに対し6.7人/1運行当たりであった。	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年11月26日

協議会名:	芦別市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>【地域内フィーダー】</p> <p>芦別市は、北海道のほぼ中央に位置しており、東西に24.96km、南北に48.65km、面積は865.04km²と広大な土地を有している。市内にはJR根室本線が通っているほか、国道38号と国道452号の2路線と11本の道道があり、札幌市まで約110km、旭川市まで約40kmの地点に立地している。人口は令和2年10月末日現在で12,822人、そのうち65歳以上人口は6,039人で高齢化率は47.1%となっている。</p> <p>当市は、人口の減少及び高齢化の急速な進展といった社会的問題、また、広大な行政区域に集落が点在するといった地理的問題を有しており、こうした中、市内バス路線を運行していた事業者が、平成19年度末ですべての路線を廃止し、その後を地元交通事業者である空知交通(株)がキラキラバスとして路線を引き継ぎ運行してきた。</p> <p>しかしながら、利用者の減少に歯止めがかからず、減便による運行コストの削減を図るものの、運行収支の悪化による市及び事業者の負担が年々増加し、通院、通勤、通学、買い物など市民生活の足となる路線の維持確保が危うい状況となってきた。</p> <p>このため、平成23年度に実施した市民アンケート調査及び平成24年度に実施した「地域公共交通調査事業」の結果をもとに、「地域公共交通確保維持事業」により、市及び事業者の負担の軽減と、高齢者等の交通弱者の通院や買い物など生活の足を確保し、地域の実情に適した持続可能な公共交通体系を構築することを目的として、4路線の循環バス及び将来的な乗合タクシーの運行も視野に入れた中で本計画を策定したところである。</p> <p>平成28年10月に、旭川市、砂川市、滝川市など他市へ通院する高齢者も多いことから、JR及び地域間幹線系統(滝芦線、芦旭線)との接続に配慮しながら利用状況を勘案し大幅な系統数や便数の見直しを行った。令和元年12月には、芦別駅を中心とした芦別駅前広場整備事業を行ったことで、芦別駅に沿線自治体と結ぶバスの乗り入れが可能となり地域公共交通のハブ化が図られた。また、翌年10月からは、JR運行ダイヤに合わせ、本市の観光施設に向かう芦別温泉線を1便増便するとともに一部路線の運行ダイヤ見直しをおこなった。</p> <p>しかしながら、令和3年10月に利用者の減少による収支状況の悪化から芦旭線が廃止されることになったため、当該路線の沿線住民の足の確保について手立てを講じる必要が生じてきたところである。</p> <p>地域公共交通は、地域に暮らす人々が安心して暮らすために必要不可欠であることから、地域住民の足の確保を図るため、新たに「地域公共交通計画」を「立地適正化計画」と併せて策定し、生活交通ネットワークの構築を進めていこうとするものである。</p>